

# 薬 劑 部

## 1 構 成 員

	平成19年3月31日現在
教授	1人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	0人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	4人（4人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	22人
その他（技術補佐員等）	4人
合 計	31人

## 2 教員の異動状況

川上 純一（教授）（H18. 4. 1～現職）

## 3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成18年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	5編（1編）
そのインパクトファクターの合計	6.78
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	12編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	4編（4編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	5編（5編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）
そのインパクトファクターの合計	0

### (1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Yoshida N, Koizumi M, Adachi I, Kawakami J: Inhibition of P-glycoprotein-mediated transport by terpenoids contained in herbal medicines and natural products. Food Chem Toxicol 44: 2033-2039, 2006.
2. Yoshida N, Yamada A, Mimura Y, Kawakami J, Adachi I: Trends in new drug interactions

for pharmaceutical products in Japan. *Pharmacoepidemiol Drug Saf* 15: 421-427, 2006.

3. Yoshida N, Takagi A, Kitazawa H, Kawakami J, Adachi I: Effects of citronellal, a monoterpenoid in *Zanthoxyli Fructus*, on the intestinal absorption of digoxin *in vitro* and *in vivo*. *J Pharm Sci* 95: 552-560, 2006.

インパクトファクターの小計 [6.78]

- B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. Sato M, Chida K, Suda T, Muramatsu H, Suzuki Y, Hashimoto H, Gemma H, Nakamura H: Recommended initial loading dose of teicoplanin, established by therapeutic drug monitoring, and outcome in terms of optimal trough level. *J Infect Chemother* 12: 185-189, 2006.

インパクトファクターの小計 [0.00]

- C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 高木昭佳, 吉田直子, 渡部有貴, 中川洋子, 北澤英徳, 三村泰彦, 足立伊佐雄, 川上純一: 和漢診療科病棟の入院患者に対する医薬品情報の提供と服薬指導を目的とした漢方薬データベースの作成とその評価. *医療薬学* 33: 15-22, 2007.

インパクトファクターの小計 [0.00]

## (2) 論文形式のプロシーディングズ

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Suzuki T, Ohashi H, Dei Y, Kondou S, Saitou M, Suzuki D: Usefulness of the serum MTX concentration. A case report of RA with pleural effusion. *Mod Rheumatol* 16: S228, 2006.
2. 見野靖晃, 内藤隆文, 前田利男, 進野和子, 大塚篤史, 牛山知己, 大園誠一郎, 賀川義之, 橋本久邦, 川上純一: 腎移植患者におけるミコフェノール酸とその7-O-グルクロン酸抱合体の体内動態に及ぼす2価金属イオン含有製剤の影響. *TDM研究* 23: S133, 2006.
3. Takemura M, Yoshida N, Adachi I, Tsutani K, Kawakami J: Comparative utilization study on antibacterial agents in hospital settings in Japan. *Pharmacoepidemiol Drug Saf* 15: S169, 2006.
4. Yoshida N, Takemura M, Abe H, Kojima M, Adachi I, Tsutani K, Kawakami J: Utilization study on Japanese traditional medicines in an academic hospital in Japan. *Pharmacoepidemiol Drug Saf* 15: S169-170, 2006.
5. 川上純一, 竹村麻耶: 医薬品使用実態調査とフォーミュラリー・マネジメント. 医薬品使用実態の比較研究: 日本の使用実態調査を医薬品ポリシーやマネジメントに活かすために. *薬剤疫学* 11: S38-39, 2006.
6. 柴田悠喜, 久保野尚子, 竹村麻耶, 鈴木洋史, 津谷喜一郎, 川上純一: 臨床データ検索システムを利用した処方と検査値異常との関係の検出法. *薬剤疫学* 11: S52-53, 2006.
7. 川上純一, 竹村麻耶, 名郷直樹, 津谷喜一郎: ジェネリック医薬品の臨床研究のシステム

ティックレビュー: エビデンスをつくる意義と方法論. ヘルスケアシステムの中のジェネリック医薬品: 医療政策から臨床の場まで. 臨床薬理 37: S102, 2006.

8. 内藤隆文, 見野靖晃, 山川花朱美, 大塚篤史, 牛山知己, 大園誠一郎, 賀川義之, 川上純一: 腎移植患者におけるミコフェノール酸の体内動態の変動要因: CYP3A5遺伝子多型とカルシニューリン阻害薬の影響. 臨床薬理 37: S225, 2006.
9. 高井伸彦, 木村路子, 乙部恵美子, 後藤かな子, 斉藤葉子, 勝又美由紀, 中川千鶴子, 可知茂男, 久米ひさ子, 古田隆久, 川上純一, 梅村和夫, 渡邊裕司: 悪性腫瘍に対する新規分子標的治療薬の治験における有害事象発現に関する検討. 臨床薬理 37: S150, 2006.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

1. 乾直輝, 貝田勇介, 竹内和彦, 石代真貴子, 宮本康敬, 榎本紀之, 須田隆文, 千田金吾, 渡邊裕司: ステロイド投与例におけるシクロスポリンの血中濃度の検討. 臨床薬理 37: S146, 2006.

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 鈴木千恵子, 可知茂男, 大木正章, 大橋佳奈, 曾我俊幸, 大門貴志, 山田浩, 梅村和夫: 治験審査委員会における安全性情報審査の信頼性確保と効率化への取り組み. 臨床薬理 37: S210, 2006.
2. 河合理恵, 太田あゆみ, 吉川俊博, 大門貴志, 可知茂男, 古田隆久, 梅村和夫, 渡邊裕司, 山田浩: 医療系学部における治験・臨床開発に関する基礎的知識の向上への試み. 臨床薬理 37: S198, 2006.

### (3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 川上純一: レクチャーノート: EBMと薬物動態 (9). 3つの「つ」と医療の質. Drug Metab Pharmacokinet (日本薬物動態学会雑誌) 22: Newsletter15-16.
2. 柴田悠喜, 渡邊進士, 川上純一, 三条芳光, 白石義人, 佐藤重仁: 術中使用薬品の効率的な管理システムとその有用性. 実践薬剤管理指導業務. Hospa 16: 5-7, 2006.
3. 川上純一, 竹村麻耶: これからのジェネリック医薬品を考える: 薬剤師の立場から. 新しい局面を迎えた後発医薬品. 医薬ジャーナル 42: 2768-2772, 2006.

インパクトファクターの小計 [0.00]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 草間真紀子, 津谷喜一郎, 川上純一, 鈴木洋史: オーストラリアにおける薬剤選択と処方支援サービス: National Prescribing Serviceの活動. 新薬と臨床 55: 1708-1719, 2006.

インパクトファクターの小計 [0.00]

### (4) 著 書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 吉田直子, 川上純一: 押さえておくべきポイント. 薬の運命 (体内動態). 折井孝男 (編) 説明

力UPI臨床で役立つ薬の知識, 学習研究社, p.45-65, 2006.

2. 吉田直子, 川上純一: 薬の副作用・注意事項のなんで?. 折井孝男 (編) 説明力UPI臨床で役立つ薬の知識, 学習研究社, p.90-122, 2006.
3. 川上純一: 薬剤の位置づけ, 中野真汎, 梅村和夫, 渡邊裕司編, すぐに役立つ! IRB委員のためのIRB審査マニュアル, ファルマバレーセンター, 静岡, p.16-17, 2007.
4. 川上純一: 用法用量, 投与経路は適切か, 中野真汎, 梅村和夫, 渡邊裕司編, すぐに役立つ! IRB委員のためのIRB審査マニュアル, ファルマバレーセンター, 静岡, p.28-31, 2007.
5. 川上純一: 薬剤師にとってのパーソナルドラッグ (P-drug), 津谷喜一郎, 内田英二編, くすりをつかうエビデンスをつかう, EBMライブラリー, 中山書店, 東京, p.8-15, 2007.

#### 4 特許等の出願状況

	平成18年度
特許取得数 (出願中含む)	1件

1. Kawakami J (Inventor), Mitsubishi Pharma Corporation, Kawakami J (Applications), Blood-brain barrier disruption inhibitors (Title), 04701099.6-2101-JP2004000105 (Application No./Patent No.), European Patent Office, 11 Oct. 2006.

#### 5 医学研究費取得状況

	平成18年度
(1) 文部科学省科学研究費	3件 (246万円)
(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	1件 (66万円)
(4) 財団助成金	1件 (100万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0件 (0万円)

##### (1) 文部科学省科学研究費

1. 川上純一 (代表者) 若手研究 (B) 「病態時における血液脳関門の破綻と医薬品による中枢神経系副作用の発現との関係解析」110万円 (継続)
2. 山本祐里 (代表者) 奨励研究 「血漿中塩酸ペプリジル濃度の測定と体内動態に及ぼす個体間差の検討」70万円 (新規)
3. 山川花朱美 (代表者) 奨励研究 「腎移植患者におけるミコフェノール酸の体内動態に及ぼすUGT1A9遺伝子の影響」66万円 (新規)

##### (3) 他政府機関による研究助成

1. 川上純一 (代表者) 国立大学法人富山大学 薬学研究助成 66万円

##### (4) 財団助成金

1. 川上純一 (代表者) 財団法人薬学研究奨励財団 「医薬品の合理的選択のための使用実態調

査の方法論の開発と比較研究: DPCに基づく包括診療とジェネリック品の  
使用促進の中での医薬品評価」100万円（新規）

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	1件	4件
(3) 学会座長回数	0件	8件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	1件	5件
(6) 一般演題発表数	5件	

### (1) 国際学会等開催・参加

#### 3) 国際学会・会議等のシンポジウム発表

1. Kawakami J: Global assessment of the contribution of drug utilization research to public health: Japan. ISPE-Euro DURG Symposium. 22nd International Conference on pharmacoepidemiology and therapeutic Risk Management, Lisbon (Portugal), Aug. 2006.

#### 5) 一般発表

##### ポスター発表

1. Yoshida N, Takemura M, Abe H, Kojima M, Adachi I, Tsutani K, Kawakami J: Utilization study on Japanese traditional medicines in an academic hospital in Japan. 22nd International Conference on pharmacoepidemiology and therapeutic Risk Management, Lisbon (Portugal), Aug. 2006.
2. Takemura M, Yoshida N, Adachi I, Tsutani K, Kawakami J: Comparative utilization study on antibacterial agents in hospital settings in Japan. 22nd International Conference on pharmacoepidemiology and therapeutic Risk Management, Lisbon (Portugal), Aug. 2006.
3. Naito T, Mino Y, Otsuka A, Ushiyama T, Ozono S, Kagawa Y, Kawakami J: Co-administered metal cations differently influence plasma trough concentration of mycophenolic acid in tacrolimus- or cyclosporine-treated renal transplant recipients. The 21st Congress of Federation of Asian Pharmaceutical Associations (FAPA), Yokohama (Japan), Nov. 2006.
4. Mino Y, Naito T, Kagawa Y, Kawakami J: Simultaneous determination of mycophenolic acid, its acyl and phenol glucuronides in human plasma using an isocratic ion-pair HPLC. The 21st Congress of Federation of Asian Pharmaceutical Associations (FAPA), Yokohama (Japan), Nov. 2006.
5. Yoshida N, Nakagawa Y, Mimura Y, Adachi I, Kawakami J: Pharmaceutical practice and research approach of hospital pharmacists for the quality use of Japanese traditional Medicine. The 21st Congress of Federation of Asian Pharmaceutical Associations (FAPA),

Yokohama (Japan), Nov. 2006.

(2) 国内学会の開催・参加

3) シンポジウム発表

1. 高井伸彦: 大学病院またはネットワークの病院CRCとして求められる教育とは. 第6回CRCと臨床試験を考える会議, 大宮, 2006年10月.
2. 川上純一, 竹村麻耶: 医薬品使用実態の比較研究: 日本の使用実態調査を医薬品ポリシーやマネジメントに活かすために. 医薬品使用実態調査とフォーミュラリー・マネジメント. 第12回日本薬剤疫学会学術総会, 横浜, 2006年11月.
3. 川上純一, 竹村麻耶, 名郷直樹, 津谷喜一郎: ジェネリック医薬品の臨床研究のシステムティックレビュー: エビデンスをつくる意義と方法論. ジェネリック医薬品の臨床薬理学からの検討. 第27回日本臨床薬理学会年会, 東京, 2006年11-12月.
4. 本橋慎也, 山本知広, 下沢亜耶乃, 山本祐里, 内藤隆文, 林秀晴, 川上純一: イントロダクション・循環器内科病棟における薬剤管理指導と薬物治療へのサポート. 循環器疾患患者への薬剤管理指導業務のあり方. コメディカルセッション・シンポジウム. 第71回日本循環器学会総会・学術集会, 神戸, 2007年3月.

4) 座長をした学会名

- 川上純一 第16回日本医療薬学会年会
- 川上純一 第52回日本薬学会東海支部総会・大会
- 川上純一 第9回日本医薬品情報学会総会学術大会
- 川上純一 第12回日本薬剤疫学会学術総会
- 川上純一 第16回日本病院薬剤師会東海ブロック学術大会
- 川上純一 第71回日本循環器学会学術集会
- 川上純一 薬剤師病棟業務指導者研修会 (平成18年度厚生労働科学研究費補助金. 医薬品・医療用具等レギュラトリーサイエンス総合研究推進事業)
- 川上純一 日本薬学会 第127回年会

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

- 川上純一 国際薬剤疫学会 (ISPE) 医薬品使用実態研究部会 (SIG-DUR) 運営委員 (steering committee)
- 川上純一 日本病院薬剤師会 国際交流委員会 副委員長
- 川上純一 日本医療薬学会 国際交流委員会 委員
- 川上純一 日本臨床薬理学会 評議員
- 川上純一 日本薬学会東海支部 幹事
- 川上純一 静岡県病院薬剤師会 常任理事



## 8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリース数は除く）	0件	1件

### (2) 外国の学術雑誌の編集

川上純一 Drug Metabolism Letters, Bentham Science Publishers, Editorial Advisory Board.

### (3) 国内外の英文雑誌のレフリース

川上純一 Eur J Clin Pharmacol, 3回（EU）

川上純一 Drug Metab Pharmacokinet, 1回（日本）

川上純一 Chim Oggi（Chemica Oggi/Chemistry Today）, 1回

川上純一 医療薬学, 5回（日本）

川上純一 医薬品情報学, 1回（日本）

川上純一 日本病院薬剤師会雑誌, 1回（日本）

## 9 共同研究の実施状況

	平成18年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	5件
(3) 学内共同研究	3件

### (2) 国内共同研究

1. 鈴木洋史（東京大学）、足立伊佐雄（富山大学）漢方薬と医薬品の薬物間相互作用－消化管吸収過程における生薬成分によるABCトランスポーターの阻害－。
2. 津谷喜一郎（東京大学）、足立伊佐雄（富山大学）日本における医薬品の使用実態調査に関する薬剤疫学研究。
3. 賀川義之（静岡県立大学）腎移植患者における代謝拮抗性免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係。
4. 賀川義之（静岡県立大学）全身性エリテマトーデス患者におけるミコフェノール酸とそのグルクロン酸抱合体の体内動態と薬効および有害反応との関係。
5. 賀川義之（静岡県立大学）フェンタニルパッチ製剤の至適投与設計法の確立を目的としたフェンタニルの体内動態の変動要因の解析。

### (3) 学内共同研究

1. 菱田明，山本龍夫，大橋温（内科学第一），小川法良，出井良明，下山久美子（内科学第三）  
全身性エリテマトーデス患者におけるミコフェノール酸とそのグルクロン酸抱合体の体内動態と薬効および有害反応との関係。
2. 牛山知己，古瀬洋，大塚篤史，永田仁夫，原田雅樹，青木高広（泌尿器科）腎移植患者における代謝拮抗性免疫抑制薬の体内動態と薬効および有害反応との関係。

3. 小川法良, 出井良明, 下山久美子 (内科学第三) シェーグレン症候群における薬物代謝酵素の遺伝子型を利用した薬剤の有効性と安全性の検討.

## 10 産学共同研究

	平成18年度
産学共同研究	0件